

令和3年度 印西市民アカデミーだより 第9号

印西の歴史散策 8 (戸定邸・戸定歴史館)

8月27日(金)、現在放映中のNHK大河ドラマ「晴天を衝け」で注目を浴びている徳川昭武の戸定邸・庭園、戸定歴史館、戸定が丘歴史公園(松戸市)を訪問しました。

戸定邸は、1884年(明治17年)水戸藩最後の藩主だった徳川昭武が建設したもので、大名屋敷を伝える数少ない貴重な木造建築です。最上等の杉材をふんだんに使う一方で装飾を最小限に留めた空間には、静かな気品が漂っています。純和風、木造平屋一部二階建て、増築を経て、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23を数えます。その戸定邸の一部である「使者の間」が終戦直後に切り離されてその後行方が分からなくなっていました。1996年に印西市発作に移築されていることが分かり、1997年に解体し、不足する材料を同じようにそろえたりして普通の工法で復元されました。

戸定邸表座敷棟の南と西には芝生の庭が広がります。徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ庭園です。洋風技法による芝生面を真南から東側へと連なるコウヤマキと西北部のアオギリが木立をなしてはさみ、南西方向の松の木立越しに東屋があるもう一つの庭園へとつながっています。洋風技法による芝生面は我が国現存最古で、樹木の木立を主要景観に取り入れる手法は類例がありません。

戸定歴史館は、昭武の遺品を中心とする松戸徳川家伝来品、徳川慶喜家伝来品、1867年パリ万国博覧会関係資料等を展示しています。徳川昭武が将軍名代として派遣された万国博覧会に関する資料や幕末から明治にかけての古写真、戸定邸の歴史を語る文書や調度品、慶喜亡くなるまで手元にあった彼の遺品などを順次公開しています。パリ万国博覧会に派遣された徳川昭武一行がマルセイユで撮った記念写真には、渋沢栄一も映っており当時の様子を伝える貴重な一枚です。

かつて7万㎡を超えていた敷地の約3分の1が、現在、戸定が丘歴史公園となっています。江戸川や富士山を望める標高25mほどの園内には、クスノキやヒヨクヒバの巨木が残り、ウメやベニシダレザクラなど四季折々の花を楽しむことができます。



使者の間



表座敷の床の間の前で



庭園



戸定歴史館



戸定が丘歴史公園